

使徒聖ペトロの前書簡

冒頭

第一章 イエズス、キリストの使徒たるペトロ、ポント、ガラチア、カパドシア「小」アジア及びビチニアに離散して寄留せる人々、ニ父にて在す神の預知に従ひて、「聖」靈によりて聖とせられ、且服従し、イエズス、キリストの御血を沃がれん爲に選ばれたる人々に「書簡を贈る」。願はくは恩寵と平安と汝等に加はらん事を。

第一編 キリスト信徒の特典及び其要する聖徳。

第一項 信徒の賜はりし恵を神に感謝す。

三 祝すべき哉我主イエズス、キリストの父にて在す神、蓋其大なる憫に從ひて、イエズスの死者の中よりの復活を以て、我等を新に生れしめて、活ける希望を懐かしめ、四天に於て汝等に備はりたる、屈せず穢れざる而も委まざる世嗣を得させんとし給ふ。五 汝等は神の能力により、終の日に顕るべく備はりたる救霊を得ん爲に、信仰を以て守らるるものなり。六 是によりて、假令暫くは種々の試に悩まざるべきも、汝等は喜に勝へざるべし。七 蓋汝等が信仰の試みらるるは、金が火を以て試るるよ

りも遙に尊き事にして、イエズス、キリストの公現の時、誉と榮と尊とを得べき者として認められん爲なり。八 汝等はイエズス、キリストを見ざりしも、之を愛し奉り、今も尚見ずして之を信じ奉り、信じ奉りて而も光榮を帯びたる言ひ難き喜に勝へざるならん。九 其は汝等の信仰の目的たる魂の救を得なければなり。○此救霊に就きては、汝等に於る將來の恩寵の事を預言せし預言者等 穿鑿して之を探索せり。一 即ちキリストの靈は彼等に在して、キリストに於る苦難と其後の光榮とを豫 告げ給ひしかば、何時の頃如何なる時を示し給へるぞと探索したりしに、二 其傳ふる所は、彼等自らの爲に非ずして汝等の爲なりとの黙示を得たり。其傳ふる所とは、天より遣はされ給ひし聖靈によりて汝等に福音を宣べし人々より、汝等が今既に告げられたる所にして、天使等も亦之を鑑みる事を欲せるなり。

第二項 神の御恵に應じて生活すべし。

一 三 是故に汝等心に帶して節制し、イエズス、キリストの公現の時汝等に賜はる恩寵を缺くる所なく希望し、一四 從順なる子兒の如く、最初の不知の望に從ふ事なく、一五 汝等を召し給ひし聖なるものに象りて、凡ての行状に於て汝等も亦聖と成れ。一六 其は録して、「我は聖なるにより汝等も聖と成るべし」とあればなり。一七 人に依怙ある事なく、各の業によりて審判し給ふ者を父と呼び奉るならば、畏を以て汝等が世に住める時を過

せ。一八是汝等が先祖傳來の空しき行状より贖はれしは、金銀の如き壞るべきものによらずして、一九無缺無垢の羔の如きキリストの尊き御血によれる事を知ればなり。二〇彼は世界開闢以前より豫知せられ給ひたりしかど、彼によりて神を信仰せる汝等の為に、世の末に顕れ給ひたるものにして、二一神が之を死者の中より復活せしめ之に光榮を賜ひしは、汝等の信仰と希望とを神によらしめ給はんとてなり。二三汝等偽なき兄弟的相愛を生ぜしめんが為に、眞理に服従する事によりて魂を潔め、一層深く心より相愛せよ。二四汝等が新に生れたるは、腐るべき種によらず、腐るべからざる種により、生きて永遠に存する神の御言によれり。二五蓋一切の肉身は草の如く、其榮は草の花の如し、草は枯れ其花は落つれども、二六主の御言は永遠に存す。汝等に福音と成りし言は即ち是なり。

第二章 然れど汝等、凡ての惡心と凡ての詐欺と表裏と妬と凡ての讒とを措きて、二 恰も生れたての嬰兒の如く、儷なき靈的の乳汁を冀へ、其、之によりて成長して救靈に至らん為なり。三 汝等もし主の善良に在せる事を味ひたらんには、宜しく然すべし。四 主は活ける石にして、人よりは棄てられしも神より選まれて尊くせられし石にて在せば、汝等之に近づき奉りて、五 己も亦活ける石の如く、其上に立てられて靈的家屋と成り、聖なる司祭衆と成り、イエズス、キリストを以て神の御意に適へる靈的犠牲を献ぐる者と成れ。六 然れば聖書に曰はく、看よ、我選

まれたる隅の上石をシオンに置かんとす、之を信する人は、辱められじ」と。七 故に信したる汝等には尊榮あれども、信せざる人々に取りては、建築者が棄てたる石は隅石と成り、八 躓く石突當たる岩と成れり、是御言を信ずして躓く様置かれたればなり。九 然れど汝等は選抜の人種、王的司祭衆、聖なる人民、儲けられたる國民なり。是汝等が、己を其妙なる光に暗黒より呼び給へるものの徳を告げん為にして、一〇 曾ては民たらざりしもの今は神の民と成り、憫を得ざりしもの今は憫を得たるものとなれり。

第二編 世間に於るキリスト信徒及び其重なる義務

第一項 神の思召によれる社會上の制度に服すべし。

一 至愛なる者よ、魂に反して戦ふ肉慾を去らん事を、寄留人と旅人との對する如く、我汝等に希ふ。二 汝等異邦人の間に在りて善き行状を守れ、是彼等をして汝等を惡人として讒る所に於ても、善業によりて汝等を重んぜしめ、訪問せらるる日に神に光榮を歸し奉らしめん為なり。三 然れば汝等主の為に、総て人の制定したるものに服せよ、即ち主權者として帝王に服し、一四 又惡人を罰して善人を賞せん為に帝王より遣はされたるものとして、凡ての官吏に服せよ。一五 蓋汝等が善を行ひて、愚なる人々の不知を黙せしむるは神の思召なり。一六 汝等

自由の身なるが如くにして、自由の惡の覆と為す事なく、神の奴隸たるもの如くにせよ。一七 凡ての人を敬ひ、兄弟等を愛し、神を畏れ奉り、帝王を尊へ。一八 奴隸たる者よ、萬事權を以て汝等の主人に従へ、常に善良温和なる者にのみならず、情なき者にも亦然せよ。一九 神を意識せるが為に、不義の苦を受けて悲に堪ふるこそ御意に適へる事なれ。二〇 罪を犯して打たるを忍べばとて、何の功かあらん、善を為しつゝ忍びてこれに堪ふるこそ、神の御意に適ふことなれ。二一 蓋 汝等の召されたるは之が為なり、其はキリストが我等の為に苦しみ給ひしも、例を汝等に胎して御跡を慕はしめ給はん為なればなり。二三 彼は罪を犯し給ひし事なく、又御口に偽ありし事なし。二四 彼は罵られて罵らず、苦しめられて威さず、唯義を以て審判し給ふ者に任せ給ひしなり。二五 彼御自ら木の上にて我等の罪を身に負ひ給ひしは、是我等をして罪を離れ義に活かしめん為にして、汝等は其蒼白めたる傷痕によりて醫されたるなり。二六 其は汝等曾ては迷へる羊の如くなりしかども、今は魂の牧者監督者にて在すものに立歸り奉りたればなり。

第三章 一 斯の如く、妻たる者も亦己が夫に服すべし、是夫が假令御言を信ぜざるも、妻の行状によりて無言の裏に、二 汝等の畏敬に在る操の行状を鑑みて儲けられん為なり。三 其飾は表面の縮らし髪、金の飾環、身に着けたる衣服に在らずして、四 心の中に隠れたる人、即ち貞淑、謹慎なる精神の變らざるに

在るべし、是こそは神の御前に價高きものなれ。五 蓋 古代の聖女等も神を希望し奉りて、己が夫に服しつゝ斯の如く身を飾りたりしが、六 其如くサラは「其夫一アブラハムを主と呼びて之に従ひ居たり。汝等は彼が女として善を為し、何の變動をも懼れざるなり。七 夫たる者よ、同じく知識に従ひて同居し、婦を我よりも弱き器として、而も相共に生命の恩寵を嗣ぐ者として、之を尊重し、汝等の祈を妨げられざる様にせよ。

第二項 信徒一般に對する教訓

八 終に「言はん、汝等皆心を同じうして相勞り、兄弟を愛し、慈悲謙遜にして、九 惡を以て惡に報いず、罵を以て罵に報いず、却て祝福せよ。是世嗣として祝福を得ん為之に召されたる汝等なればなり。一〇 蓋 生命を愛して佳日を見んと欲する人は、其舌をして惡を避けしめ、其唇、偽を語らず、二 惡に遠ざかりて善を為し、平和を求めて之を追ふべきなり。三 是主の御目は義人等の上を顧み、御耳は彼等の祈に傾き、御顔は惡を為す人々に怒り給へばなり。四 抑 汝等若善に熱心ならば、誰か汝等に害を為すべき。一四 又假令義の為に苦しめらるるも福なり、人々の威を懼れず、心を騒がさず、一五 心の中に主キリストを聖なるものとせよ。常に汝等に在る所の希望の所以に就きて、問ふ人毎に満足を與ふる準備あれよ、一六 但 善き良心を有して柔和と畏敬とを以て答弁せよ。是キリストに於る汝等の善き

振舞を讓言する人々の、其譏る所に就きて自ら耻ぢん為なり。一
七 蓋神の思召ならば善を為して苦しむは惡を為して苦しむに
優れり。一八 即ちキリストも一度我等の罪の為に、即ち義人と
して不義者の為に死し給ひしが、是我等を神に獻げ給はん為に
して、肉にては殺され給ひしかど、靈にては活かされ給ひ、一九
其靈は獄に在りし靈に至りにて救を宣傳へ給へり。二〇 是等の者
は、昔ノエの時代に神の忍耐の待ちをりしに、方舟の造らるる
間服せざりし者なりしが、此方舟に於て水より救はれし者僅に
八人なりき。二一 之前表せられたる洗禮こそ今汝等をも救へ
るなれ。是肉身の穢を去る故に非ずして、イエズス、キリストの
御復活によりて善き良心が神に為し奉る約束の故なり。二三 彼
は（我等に永遠の生命を得しめん為に、死を亡ぼして）天に往き
給ひ神の御右に在して天使、権勢、能力は之に服せしめられた
るなり。

第四章一 キリスト既に肉身に於て苦しみ給ひたれば、汝等も亦
同じ心得を以て武器とせよ。蓋肉身に苦しみたる人は、是罪を
罷めたるものにして、最早人の慾に従はず、神の思召に従ひて
肉體に残れる時を過ごさんとするものなり。二三 蓋我等既に於
ては、異邦人の望を全うして、淫亂、情慾、醉狂、暴食、暴飲
及び邪なる偶像崇拜に生活せし事にて足れり。四 彼等は汝等が
同様なる放蕩の極に走らざるを怪しみて之を罵れども、五 今已
に生者と死者とを審判せんとして待設け給へる者に報告し奉る

べし。六 蓋福音が死者にも宣傳へられしは之が為、即ち死者が
人の通例に従ひて、肉身は審判を受けたりとも、靈は神によりて
活きん為なり。

第三編 キリスト教會の内面の生活に関する勸。

第一項 現に守るべき行状。

七 萬物の終は已に近づけり、然れば汝等慎み祈りつつ警戒せ
よ。八 何事よりも先に互に厚き愛を有せよ、愛は多くの罪を覆へ
ばなり。九 苦情なく相接待し、一〇 各受けたる賜に應じて神の
様々なる恩寵の善き分配者として、互に之を供給せよ。一一 即
ち人語る時は神の御言を語るが如くし、務むる時は神の賜へる
能力を以てするが如くすべし。是神が一切に於てイエズス、キ
リストを以て尊はれ給はん為にして、光榮と主權と世々之に歸
す、アメン。一二 至愛なる者よ、汝等を試みんとする火の如き苦
を、新奇なるものの到來せるが如くに怪しむ勿れ、二三 却てキリ
ストの苦に與る者として喜べ、是其光榮の顯れん時、汝も亦喜
に耐へざらん為なり。一四 汝等若キリストの御名の為に侮辱せ
らるる事あらば福なるべし、其は光榮の靈、即ち神の靈汝等の
上に止り給へばなり。一五 然れど或は人殺、或は盗人、或は
惡漢、或は他人の事に立入る者として苦しめらるる者は、汝等
の中に一人も之あるべからず。一六 若キリスト信者として苦し

められなば耻づる事なく、却て此名に對して神に光榮を歸し奉るべし。一七 蓋時は來れり、審判は神の家より始まらんとす、若我等より始まらば、神の福音を信ぜざる人々の果は如何に成るべき。一八 若又義人にして辛く救はれなば、敬虔ならざる者と罪人とは何處にか立つべき。一九 然れば神の思召に従ひて苦しむ人々は善を爲して、眞實にて在す造物主に其魂を頼み奉るべきなり。

第二項 牧師及び信徒に関する特別の勸告

第五章 汝等の中の長老には、我も共に長老として、又キリストの苦難の證人として、將來顯るべき光榮に與る者として希ふ。二 汝等の中に在る所の神の羊の群を牧せよ、之を監督するに、強ひられてせずして喜びて神の御為に、耻かしき利の爲にせずして特志を以て行ひ、三 托せられたる人々を壓制せずして、心より群の模範と成るべし。四 然らば大牧者の頭れ給はん時、汝等洞まざる光榮の冠を得べし。五 若き者よ、汝等も亦長老に服せよ、皆互に謙遜を帯びよ、神は傲慢なる者に逆らひて、謙遜なる者に恩寵を賜へばなり。六 然れば汝等、神の全能なる御手の下に謙れ、然せば時至りて彼汝等を高め給はん。七 思ひ煩ふ所を悉く神に委ね奉れ、神は汝等の爲に慮り給へばなり。八 汝等節制して警戒せよ、其は汝等の仇なる惡魔は、吼ゆる獅子の如く、食盡すべきものを探しつつ行廻ればなり、九 汝等

此世に在る兄弟等の同じく苦しめる事を知りて、信仰に心を堅めて之に抵抗せよ。一〇 一切の恩寵の神はキリスト、イエススによりて其永遠の光榮に汝等呼び給ひしものなれば、聊苦しむたる上は、御自ら完全に堅うし強からしめ給はん、二 光榮と主權と世々に歸す、アメン。

結末。

二 忠信なる兄弟シルヴァノを以て我が汝等に書贈りし所は、我思ふに簡單なり。是此神の恩寵の眞なる事を勸告し、且保證するものにして、汝等宜しく之に立つべし。三 汝等と共に選まれてパピロンに在る教會、及び我子マルコは汝等に宜しくと言へり。四 愛の接吻を以て互に宜しく傳へよ。願はくは、キリストに在る汝等一同に平安あらん事を、アメン。